



# 環境にやさしい花いっぱいのおらが町づくり

～ ハンギングバスケットを用いた花壇づくり ～



高校生による地域住民対象のハンギングバスケット教室

NPO

企業

行政

教育

地縁

## ■事業運営団体

千葉県立安房拓心高等学校 園芸部

## ■協働パートナー

☆富浦地域づくり協議会「さざなみ」  
☆NPO法人和田地域づくり協議会  
『WAO!』

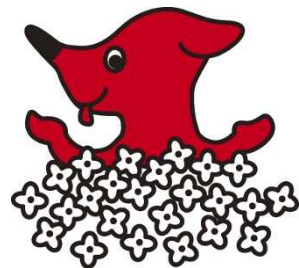
☆南房総市

## ■事業の手法

☆事業協力

## ■事業費

☆4.6万円



## 事業概要

「楽しもう！おとなも子どももみんなでエコ！」をテーマに、ペットボトルを再利用したハンギングバスケットによる花壇づくりや、ハンギングバスケット教室を実施することで、道の駅に訪れた観光客や地元の方にペットボトルを再利用したハンギングバスケットの存在を知ってもらい、作製・使用していくことで環境にやさしい花いっぱいの町づくりをしています。

## 協働までの経緯

千葉県立拓心高等学校園芸部は、かねてから学校内のみならず、近隣の小中学校や地域住民を対象とした「花いっぱい運動」を実施していました。

その活動中に、地域の方から「庭が狭いから花が植えられないの」「花壇がないのよね」という相談がよせられたことで、フラワーデザインの授業で学んだ「ハンギングバスケット」に着目し、場所をとらず、誰もが手軽に作製できるものとして、活動に取り入れるための研究を始めていました。

研究を進める中で、ペットボトルを使用する案が出たことから、ペットボトルの回収に係る現状などを調査したところ、ペットボトルは、その利便性と原価の安さから盛んに消費されるようになり、その生産量はこの15年間で約3倍に増えましたが、平成9年に容器包装リサイクル法が施行に伴い、南房総市でも回収に力を注いでいるものの、回収率は平成18年から約50%にとどまり、ペットボトルの急増に回収が追いついていかないということが解りました。

そこで、これらの課題を解決するため、平成24年から、JR南三原駅や道の駅で生徒たちが考案したペットボトルを再利用したハンギングバスケットを設置する活動をしていました。

また、ハンギングバスケットをより多くの方に知っていただく場として幕張メッセで開催された第24回日本フラワー＆ガーデンショーに、ハンギングバスケット500個を再利用して作製した縦2.7m×横5.4

mの巨大で色鮮やかな空飛ぶ虹色のクジラのデザイン壁画を出展して、その存在を多くの方に伝えるなど啓発にも力を注ぎました。

そんな中、南房総市から同校に、地域での花壇作りに協力してもらえないかとの相談があったことをきっかけに、25年度からこの活動を地域に普及させていくことでゴミを減らし、環境にやさしい花いっぱいのまちづくりを行っていくことになりました

また、このペットボトルを活用したハンギングバスケットの魅力を地元の方にも知ってもらおうと、交流施設を拠点にまちづくりに取り組んでいる富浦地域づくり協議会「さざなみ」とNPO法人和田地域づくり協議会『WAO!』にも声をかけ、事業協力という形での協働を開始しました。

## 主な事業内容(年間スケジュール等)

- ①4月 富浦地域づくり協議会「さざなみ」の子どもの居場所づくりグループ「びわっこガーデン」でハンギングバスケット教室開催
- ②5月上旬 富浦地域づくり協議会「さざなみ」と一緒にとみうら元気倶楽部の花壇への植栽指導
- ③5月下旬 NPO法人和田地域づくり協議会『WAO!』のにぎわい部会と一緒に和田コミュニティセンターの花壇・プランターへの植栽指導、ハンギングバスケットの設置



地域の皆さんにハンギングバスケットの作成指導



ハンギングバスケット設置作業

### 主な協働パートナーとの役割分担

- 【学校】草花苗の栽培、花壇の作製指導、ハンギングバスケットの作製及び作製指導
- 【NPO】地域の方への参加の呼びかけ、ハンギングバスケットのPR、ハンギングバスケット等の継続的な管理
- 【行政】各団体の連絡調整、広報・PR支援

### 協働事業によって生まれた成果

- ペットボトルを再利用したエコなハンギングバスケットの存在を多くの方に知ってもらうことで、環境問題への意識を高めることができた。
- 多くの団体からハンギングバスケット教室の開催要望が増えており、活動が広がりゴミ減量と花いっぱいのみちづくりにつながっている。
- 地域づくり協議会と交流することで、普段、生徒が接することがあまりない親子連れや高齢者といった幅広い年代の方々と触れ合える場ができた。
- 高校生からの指導により、地域の方が草花の栽培管理方法や技術、花壇の管理方法を習得することができた。
- 生徒にとっては、人前で話しをすることが増え、説明する能力やコミュニケーション能力が向上した。
- ただハンギングバスケットを飾るだけでなく、多くの観光客が訪れる施設などに花壇と一緒に設置することが可能となり、華やかに彩ることができるように、四季の彩りが楽しめるよう植栽の種類や配置にも工夫ができるようになり、街との調和が図れるようになりました。

## ♡ コラボのコツ!!

★イベント集客のため団体の既存イベントとコラボ

ハンギングバスケット教室の開催などのように参加者を募集するイベントを企画する際には、効果的に集客できるよう、既に定期的に活動している富浦地域づくり協議会「さざなみ」の子どもの居場所づくりグループ「びわっこガーデン」を応援するという形で開催するなど、ターゲットとなる親子連れや地域の方がより参加しやすい形となるように配慮しています。



ハンギングバスケット完成

### 今後力を入れていきたいこと

今後も地域の特色や季節、行事にあわせたハンギングバスケット教室を精力的に行っていくことで、地域づくり協議会をはじめとした地域の様々な組織や団体の連携に繋げるとともに、多くの方の環境意識を向上させていくことで、環境にやさしい花いっぱいのみちづくりを促進していきたい。

教育的観点からも、高校生が地域の方との交流を通して幅広い人間性を身につけてくれることを期待している。

#### 運営団体マネジメント&活動実績

##### \* 千葉県立安房拓心高等学校 園芸部

【代表者】 校長 井上 暁      【住所】〒299-2795 千葉県南房総市和田町海発1604  
 【TEL】0470-47-2551      【事業担当者】顧問 原田泰雄      【e-mail】 y.hrd14@chiba-c.ed.jp

<b>■ 広報ツール</b> WEB    メルマガ    広誌    ブログ    FB    tw	<b>■ 協働事業の実績</b> 企業    行政    教育    地域    NPO	
<b>■ これまでに支援を受けた補助金等</b> 【補助金】 - 【委託】 -		
<b>■ 表彰歴・マスコミ掲載歴等</b> ①平成24年度ライトブルー少年賞(千葉県知事賞) ②平成25年度第23回全国花のみちづくりコンクール『若葉賞』		